

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	高齢者生きがい推進事業			会計	款	項	目	大	小
政策	01	1節	整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	高齢者支援課				
施策	4-2	高齢者や障害者がいきいき暮らせる社会づくり		主管課長	石井 由美子				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	65歳以上の市民	意図	高齢者同士の交流の機会を増やし、生きがいを持って健やかな生活を営めるようにするとともに長寿を祝う。
事業内容	老人クラブ連合会の活動を補助することで単位クラブを活性化させ、地域高齢者の加入促進を図る。 88歳、100歳の市民に祝金を支給し、長寿を祝福する。 毎月12日、22日に70歳以上の市民に無料で銭湯（江戸川台：江戸川湯・南柏：南力湯）に入浴していただくことで高齢者間の交流と健康増進を図る。			
事業開始から現在までの状況変化	老人クラブ連合会に対する活動支援を継続して実施していく。 敬老祝金の贈呈は、昭和33年からの敬老年金を改め実施してきた。平均寿命の延びに伴い平成22年度からは77歳支給を廃止した。平成28年度からは支給対象を88歳及び100歳とした。平成23年度から70歳以上の市民を対象にシルバーコミュニティ銭湯事業を開始した。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	老人クラブ数	68	66	64	団体	↑↑↑	
②	老人クラブ会員数	3,045	2,896	2,771	人	↑↑↑		
③	敬老祝金支給者数	624	633	678	人	↑↑↑		
④	シルバーコミュニティ銭湯利用者数	2,928	2,954	2,935	人	↑↑↑		
⑤								
⑥								
指標で表すことができない定性的な成果							目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・老人クラブ数、会員数は減少傾向にある。 ・敬老祝金は、増加傾向にある。 ・シルバーコミュニティ銭湯利用者数はやや減少した。	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度				
事務事業の総コスト(a=b+c)		20,937,162	20,800,272	21,296,572				
事業費(b)(円)		17,504,662	17,444,272	18,000,572				
うち一般財源		17,504,662	17,444,272	18,000,572				
職員給与費(c)(円)		3,432,500	3,356,000	3,296,000				
人役・職員(人)		0.50	0.50	0.50				
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	B 市が担うとともに、市民協働を進めるべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	老人クラブ及び連合会への補助金を通じ活動の活性化を図る。また、敬老事業として、敬老祝金の支給やコミュニティ銭湯事業を実施する。	③取組における課題(Check)	老人クラブ数、会員数は減少傾向にある。クラブ数の維持及び会員数を増やす手段の検討が必要な他、老人クラブのあり方を見直していく必要がある。
②H30に実施した取組(Do)	老人クラブ連合会50周年事業を補助したほか、老人クラブ会員募集チラシの自治会配付に協力した。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	老人クラブについては引き続き補助金の支給等により活動の活性化を図っていく。コミュニティ銭湯については市民への周知を図っていく。